

改善報告書

令和 7 年 7 月 30 日

1. 大学名：兵庫大学短期大学部

2. 認証評価実施年度：令和 5 年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：5－4

○法人全体の財務状況について、事業活動収支差額が恒常的に支出超過であり、内部留保資産比率や運用資産余裕比率も低い状況が続いているため、早期の改善が必要である。

4. 改善状況及び結果

基準項目 5－4 について

令和 5 (2023) 年度から学園の中期計画「睦学園グランドデザイン 2030 (令和 5 (2023) 年度～令和 12 (2030) 年度)」(以下、「グランドデザイン 2030」という。)を策定し、令和 5 (2023)～令和 6 (2024) 年度を第Ⅰ期(将来を見据えて検討を進め、実現に向けた準備期間)、令和 7 (2025) 年度～令和 9 (2027) 年度を第Ⅱ期(第Ⅰ期で深めた議論に基づき実行する期間であるとともに、見直し等を行い、推進する期間)、令和 10 (2028) 年度～令和 12 (2030) 年度を第Ⅲ期(掲げた目標に向け推進し、成果を生み出す期間)と位置づけ、目標の達成に向けた取り組みを推進している。

令和 6 (2024) 年度決算における財務状況について早急に改善するべく、短期大学をはじめとする全ての学校種において人件費削減を含むあらゆる経費削減を断行する「学園の経営状況と財務改善に向けた取組」を計画し、現在鋭意取り組んでいる。

以上の経費削減を実施することで、状況は改善するものの、事業活動収支差額は「グランドデザイン 2030」の最終年度となる令和 12 (2030) 年度においてもプラスにはならないが、令和 6 (2024) 年度の△606,496 千円から△63,834 千円へと大幅に改善する予定である。また、本学園は多額の減価償却費を計上していることから、減価償却費 519,500 千円を除いた補正後の事業活動収支差額はプラス 455,666 千円と大幅なプラスになる予定であることから、順調に財務状況は好転していると言える。

内部留保資産比率及び運用資産余裕比率についても、資金面での改善が図られることにより、それに合わせて次年度繰越支払資金(現金預金残高)も順調に増加することから、どちらの財務比率も好転する見込みである。

さらに、第Ⅱ期(令和 7 (2025) 年度～令和 9 (2027) 年度)から始まる「グランドデザイン 2030」における財務シミュレーションでは、学生、生徒、園児数の実態に即した収入見込み、教育の質を維持・向上させることを前提とした人件費を含む経費の適正化に取り組み、令和 7 (2025) 年度以降、安定した財政基盤の確立を目指していく計画である。

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目 5－4 の資料

- ・ 令和 6 年度睦学園決算書
- ・ 理事会議事録（令和 7 年 6 月 7 日）
- ・ 同理事会審議資料（第 5 号議案）